

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 会 議 </div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	3761
		決裁期日	令和5年3月10日
名 称	令和4年度 第4回安平町未来創生委員会		
日 時	令和5年2月21日 午前 ・午後 10時00分～12時00分		
場 所	総合庁舎 大会議室		
出席者	委員・外部有識者 12名 安 平 町 (政策推進課) 渡邊課長、山口参事、木村課長補佐、高橋主幹、 笹山主査、主事吉田		
会議概要	<p>1 開会（進行：渡邊政策推進課長） ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇総合計画後期基本計画（案）について、意見の皆様から各種意見をいただき、本日は意見に対する考え方や、変更点について事務局から説明がある。また本委員会への諮問に対する答申案も示されているので、委員の皆様には様々な視点からご意見を頂きたい。</p> <p>3 議事 （1）第2次安平町総合計画後期基本計画（案）に係る主な意見及び変更点について 【資料1】</p> <p>・前回の委員会も含めた、第2次安平町総合計画後期基本計画（案）に対する意見について、町の考え方や計画変更内容を別添の資料に沿って説明。</p> <p>◇質疑応答要旨</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> 追分高校の存続について、コミュニティスクールが保護者や地域の要望に沿った、議論がされる場になり、追分高校の将来を考えた解決策になるのかどうかを聞きたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> コミュニティスクールは地域の方から要望を上げるひとつの窓口になる。地域の要望を吸い上げて学校の方に伝える窓口になるので要望に沿った議論がされるという認識で間違いない。追分高校は公立で権限がないため、自由に動くことができないが、そこを唯一打ち破れる糸口になるので、要望を上げていくことで、アクションを求める有効な手段になる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> ポイントあびらについて、発行枚数やポイントの利用状況の現状はどのようになっているのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> ポイントあびらの利用者数は増えているが、まだまだ加盟店の数、利用者数も足りていないと認識している。令和5年度以降も3ヵ年かけて、利用者促進や加盟店を増やす取組みを行っていく予定である。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <委員> 新聞でウォーキングにポイント制を導入して、ポイント欲しさに歩く人が増えた事例をみた。特産品の抽選をしたり、買い物安くなったりするポイント制を広めていくのにウォーキングなどに導入したらどうか。 </div>		

<政策推進課>

安平町でもポイントあびらになる前にウォーキングにそういった仕組みを組み合わせで行った事例がある。抽選についてもすずらんシール会などで前例があるので関係課に伝えて検討させていただきたい。

<政策推進課>

ポイントについては民間の会社でウォーキングとポイントを連動させた民間アプリなどもある。社会の動きとそういった状況も踏まえながらどういった形が安平町に馴染むのかも含め検討していきたい。

<委員>

有機農業の推進について、市場にだせないB品は最終的には土に埋めて肥料にするなどして廃棄されてしまう。食品のロスをなくすために、市場に出せないB品を加工するための加工場があれば良いと思うが、そのような加工場を町に作る支援制度や取組みはないのか。

<政策推進課>

B品を安売りしすぎてしまうと野菜の価値が下がるため、バランスを見ながら支援ができればと思う。加工品については、支援策を講じているところだが、町として加工場を作ると、加工の仕方には様々な方法があり、個々で許可をとれる範囲の設備を揃えていく必要があるので中々難しい。国の融資策や補助事業を活用できるような支援体制の構築が必要になる。加工品については、商工観光課において地域ブランド事業として後押しをしている。

(2) 第2次安平町総合計画 後期基本計画(案)の答申について【資料2】

- ・総合計画後期基本計画の策定について、令和4年7月15日付けで、未来創生委員会は、安平町長から諮問を受けている。
- ・この諮問に対して、未来創生委員会から答申書を町に提出することとなる。
- ・議事(1)で説明した未来創生委員会委員の意見を踏まえて、答申書の付帯意見とし、答申書(案)を作成している。
- ・正式な町への答申提出は、委員長・副委員長が別日に町長に対し答申書を提出することを予定している。

◇質疑応答要旨

<委員>

要望として、事業の年間の目標設定を分かりやすくまとめてほしい。

<政策推進課>

政策関連の事業で1つの分野だけではなく、他の事業とどう繋がっているかが問われる。ソフト事業は政策間の連携や1つの自治体だけではなく、もっと広域的な観点で見る必要がある。そういった部分を町民にお伝えしながら進めていきたい。

<委員>

ゼロカーボンの取組みについて「再生可能エネルギーの可能性」との記載があるが、もう可能性とか言っている段階ではないと思う。森林資源も減ってきているのもっと強く記述した方がよいのではないだろうか。

<政策推進課>

ゼロカーボンについて、安平町で消費する電力をどうやって賄えるかの基礎調査をやるところ。安平町は山が少ないので、太陽光発電が一番適している。太陽光以外にもバイオマス発電や、小型の水力発電もあり検討の中に入れていく。ゼロカーボンは再生可能エネルギーの可能性の部分为基础調査できていない段階なので、そういった部分を実際どういった可能性があるかを調査していく。

<委員>

人口増加に向けた取組みの記載が少ないと思う。人口の流入はもちろんだが、出生率の方にも重点を置くべきではないか。まだ結婚をしていない層にも子育てに興味を

持ってもらうための取組みを行う必要があると思う。

<政策推進課>

人口増加については、空き家活用や賃貸住宅の建設用地の確保が住まい確保という点で直結する部分で入れている。昨年は人口の社会動態で転入が転出より上回ったが、人口全体で見ると自然減少が生まれている数よりも上回っていて、人口減少となっているので、出生率をあげていく必要があると認識している。町長に答申書を出すことになっているが、社会増減の対策を含めて安平町の人口減少対策について複合的に取り組んでいただきたい旨の文言を、答申書に入れるかどうかを委員会で決めたいと思うが、他の委員の意見を聞きたい。

<委員>

今まであった話を踏まえて私は文言を追加するべきと思う。

<委員>

人口増加について、成功事例を取り入れるべき。また高校進学、大学進学の際に転出して、そのまま戻ってこない人の理由を調べた方がいい。また、答申に町内商店街における後継者対策として記載のある事業継承は初期費用がかかるため、家賃を支援する補助金を作ることで、興味を持ってもらえる取組みになるのではないかと。

<委員>

企業も人が足りていないので、企業に対しての取組みを強化してほしい。隣接する苫小牧には工場がたくさんあるので、働く人を呼び込む仕組みづくりをお願いしたい。

<外部有識者>

始まったばかりの取組みについて、効果を発揮して結果が出るのはまだ先になるので文言追加の必要はないと思う。安平町ならではの良さを広げつつ、コミュニケーションを充実させることが重要だと思う。

<政策推進課>

今のいただいた意見を踏まえて人口減少対策について、すぐに成果としては出ないかもしれないが、そういった観点を踏まえながら安平町として人口減少対策をしっかりと取り組んでほしいと意見を盛り込ませていただき、文章については事務局と委員長、副委員長と相談させていただいて、答申書にしていく。

(3) その他

- ・後期基本計画策定に係る今後のスケジュールについて説明。
- ・次回の未来創生委員会は5～6月予定

4 閉会 (12:00)

以上、終了。